

ジェンダーと進路

皆さんはジェンダー（社会的性差）について意識することはありますか。ジェンダーとは「男女を区別し性別を意味する言葉。セックスが男女の生物学的・解剖学的な差異を示すのに対し、ジェンダーは社会や文化によってつくられた性差」（『岩波小辞典 社会学』）です。

例えば、「男は理系、女は文系」という言葉について考えて見ましょう。今は随分変わってきましたが、それでも理系クラスには男子が多く、文系クラスには女子が多いのはなぜでしょうか。男子は理系的能力が得意で秀でているとか女子の方が文系教科に興味を持ちやすいなどということは科学的には証明されていません。それでも毎年、文理選択で同様な傾向があるのは、高校になるまでの環境の中でそういう性差に基づく役割や価値観が植え付けられていることにその原因を求めた方が理解しやすいと思います。

進路とジェンダーに関してはこのように深い結びつきがみられ様々な論議がなされています。例えば、女性の労働に関して男女間の格差が問題となっていることは女性の就職や昇進の機会が未だに限られていることに起因していると考えられます。年齢階級別女性の労働力率の「M字型カーブ」について現代社会で習ったので覚えている人があるでしょう。また男性の家事・育児参加の問題もこれと密接に関わっています。

ところが、最近はこちらジェンダー問題を覆すような取り組みが色々なところで見られるようになってきました。例えば、「リケジョ」という言葉が知られているように、理系学部で女子入学枠を設定するなどの女子の進学を支援する試みがなされています。これはかつて「男子学生の発奮を促すため」などといわれたこともありますが、最近は工学などにも「女性らしさ」や生活者の新しい視点を取り入れようという目的もあると聞きます。このように既成の概念や学問を変革しようという積極的にジェンダーを活用する発想が企業でも大学でも取り入れられつつあります。もちろん、女性だけがその対象であるわけはありません。従来女性の職・進路と見なされていた分野にも男性が求められ進出しているということがあります。看護や保育はその典型例でしょう。ここでも男性の役割が従来の発想や環境を変えることが期待されているのです。

自分の進路について考える際、ジェンダーのような既成概念や価値観にどこまで自分がとらわれているか自問自答してみることは大切なことです。その結果、もしかしたら各自の進路を大きく拓くヒントを得られるかもしれません。

（文責：今井雅）

♪1年の窓♪

気づけば前期期末テストまで3週間弱です。学習に燃えるべき時期がやってきました。そこで今回は、

～成績アップの学習習慣をチェック！！～

1年生の秋に良い成績をとる人の特徴は…

- 平日は2時間以上学習している
- 休日は3時間以上学習している
- 古典の学習は、宿題と予習が中心で、辞書などを使い全文を現代語訳する
- 数学の学習は、宿題と復習が中心で、解けない問題の分からない点を明らかにする
- 英語の学習は、宿題と予習を中心で、平日1時間以上は学習している
-

上記の学習習慣は身につけていると言えますか。ダメでも今から目指しましょう。今月末の前期期末テストで、気持ちよく前期を締めくくりたいですね。

（文責 谷）

♪3年の窓♪

高校生活最後の夏休みが終わりました。「夏を制するものは受験を制す」との言葉もありますが、皆さんは、夏休みは有意義に過ごせましたか？

今年の3年生については、“やらされる勉強”ではなく“やる勉強”を意識して、サタスタや、火金補習等を希望者制にしました。夏休みの補習の取り組みの様子を見る限り非常によい雰囲気を取り組めたと思います。文化祭準備で登校している人達の会話を聞いていても、これから帰りに塾でこんな勉強をするぞといった話をしている人も多いですね。これからも積極的な姿勢で頑張ってください。

反面、夏休み中にほとんど学校で見かけなかった人も何割かいます。その人達は自身を厳しく鍛えることが出来たのか、ちょっと心配です……。

有意義な夏を過ごせた人にも、悔いの残る夏を過ごした人にも、等しく入試は近づいてきます。文化祭が終わるとすぐに私大のAO入試等が始まります。11月に私大の推薦入試に挑戦する人も多いでしょう。センター試験まであと4カ月しかありません。限られた時間の中でやるべきことは山ほどあります。どんな小さなことでも、必要な事で、今出来ることがあればどんどん片付けましょう。その積み重ねが後に大きな時間の余裕を生み、逆に小さなことの放置が積もり積もって自らの首を絞めていきます。

「隙間時間を有効に活用する」という当たり前の事の大切さをしみじみと実感するころには手遅れです。まだ実感が湧かない今から取り組んで下さい。（文責：鈴木 貴博）

♪2年の窓♪ 「9月とは・受験に向けて」

夏休みが終わり、9月が始まりました。今までの9月とは違います。入試を意識して学習を始めていく月です。3年生は8月の全統マーク模試の結果が返ってきます。その偏差値や得点率で、目指す学校の難易度や受験科目のおおよそを決め、そこに向けて追い込みをしていきます。つまり、**3年8月第1週の模試までにどこまで力を付けたか**が、将来への大きな一歩となるのです。何度も皆さんに話をしていますが、**全国の受験生の約8割が2年冬には受験勉強に取り掛かります**。将来の方向性がまだという人も力をつけておかないと後からでは時間が足りません。まずは、**復習や苦手科目の学び直し、そして、学習時間を確保しましょう**。国公立のラインになるセンター総合600点を取る先輩は3年4月平日に**平均4時間以上**の勉強をしています。受験の始まりの11月1日の5科目模試に向けて、君は学習時間をどれだけ取りますか？（文責：竹腰）

○文系の窓○ 切り口を考える……

皆さんは日本の食文化において、こんな違いがあることを知っていますか。

- (1) うなぎの蒲焼きには、背開きと腹開きがある
- (2) 醤油には、うす口醤油と濃い口醤油がある
- (3) 出汁には、昆布だしと鰹だし
- (4) 雑煮のもちには、角餅と丸餅

では、その地域的境目はどこにあるかを知っていますか。

ある食品メーカーのヒット商品である「どん兵衛」というカップうどんには2種類あって、私たちが店で買うものは鰹だしのものです。多治見あたりではこんぶ出汁の「どん兵衛」が陳列されているのを目にすることはほとんどありません。

こんな風に、地域的な差異を考える時、「民俗学」といった学問からアプローチすることができます、そんな学問分野があることをたぶん多くの高校生は知らないでしょう。

ところで、「グローバル化」ということばがさかんに言われる中で「ローカル」という考え方があることを知っていますか。地域について考えることが、より広い世界を視野に入れて考えることができるという考え方です。

たとえば、岐阜大学地域科学部は、そんな観点から幅広い研究ができる学部です。具体的に何を学びたいとはっきりした目標がまだ定まらない人、ちょっとホームページをのぞいてみてはいかがでしょうか。(文責 大島)

○理系の窓○ (文責：渡部 里織)

先日、名古屋工業大学の先生がこうおっしゃっていました。「工学部は女子を求めている！」(名工大には女子推薦の枠がある)ある調査によると、男性脳は論理的・分析的であり、女性脳は芸術性・創造性があるのだという。工学の分野ではこの女性脳の創造性という点から、女性技術者が求められているのです。しかし、どうしても工学部という男子生徒の割合が圧倒的に多いのが現状。多治見高校でも工学部志望の女子は少ないです。

そんな中、今回は山形大学・工学部・バイオ化学工学科に注目です。この学科、なんと半分以上が女子学生なのです。その理由の1つは、専門必修科目として「化粧品学」の授業があること。化粧品を設計し、製造する上で必要な皮膚科学・製剤学について学び、さらに具体的な洗浄料・スキンケア化粧品・メイクアップ化粧品の機能とそれを支える技術についても学ぶことができます。開発者として化粧品に関わるなんてどうですか？まさか工学部で化粧品について学べるなんて思いもしませんよね？その他にもこの学科では薬学の先生がおり、「医薬品化学」なんて授業もあります。

学部学科の名前だけで大学を探すだけではなく、その中身にも興味を持ってみましょう。やりたいことが分からない、見つからないなんていう人も絶対に興味を持てる学問があるはずですよ。



☑総合学習の扉☑

第4回 総合学習の扉の中へ 2歩目！

夏休み前のある研修にて、「アクティブラーニング」という学習方法を聞いてきました。「アクティブラーニング」とは、従来の教員が一方向的に知識を教えていく「講義型」ではなく、生徒自らが課題を解決したりプレゼンテーションをおこなったりする「能動的な学習」のことだそうです。この「アクティブラーニング」で大事なことを1つ簡単に紹介します。

それは、「INPUTとOUTPUT」です。「INPUT」とは、理解することです。理解するためには分かっている人に聞くこと大事になってきます。そして、「OUTPUT」とは理解したこと（INPUT）を人に説明できることです。この理解から説明の作業を繰り返し行うことがより深い理解につながる効果的な学習だと言われています。

さて、総合学習では、「INPUT」よりも「OUTPUT」をする機会が多い授業になると思います。自分の興味のあることを自分だけで理解し完結するのではなく、人に説明できてこそ真の理解につながると思います。夏休み学んだこと（一冊の本のレジュメやオープンキャンパスで感じたこと）を積極的に周りに話をして、自分の理解も深めていってください。

(文責 波勢)

○Book Review○ (文責：鈴木 貴博)

- ①『「戦国大名」失敗の研究～政治力の差が明暗を分けた～』（瀧澤 中）
- ②『東大生が捨てた勉強法 ～なぜ彼らは「あのやり方」をやめたのか～』（東大家庭教師友の会）
いずれもPHP文庫

「人の振り見て我が振り直せ」という諺がありますが、人間は動物と違い自分自身が経験をしなくても、他人の経験から学ぶことが出来る生き物です。人間は一人一人が異なる個性を持っているため、成功に至る道のりも、失敗に至る経緯も一人一人が異なることは事実なのですが、それでもやはり他人の経験から学ぶことはたくさんあります。特に失敗談からは学ぶことがたくさんあると思います。

①では歴史上の敗者を取り上げてその滅亡の原因を論じています。歴史では、勝者にスポットライトが当てられ、敗者に対しては「愚かだったから」「弱かったから」「悪だから」等、バツサリ適当に片付けられることが多いのですが、本書では敗者の有能さ、有利だった点等を多く紹介した上で、近代の政治家や戦争と対比しながらその失敗の原因を分析しているなかなか面白い読み物です。

「東大生がやっている勉強」というと、「そんなの東大に合格する人達しか出来ないでしょ！」とツッコミたくなる勉強法も多いのですが、②は東大生がやって上手くいかなかった勉強法を題材にしているので、多くの人に参考になるのではないのでしょうか。先にも書いたように人は一人一人違います。本書でも個々の勉強法について、「それは有効だ」と答える学生、「自分には合わない」と答える学生の意見の両論が載っています。

結局、「全員に適した勉強法なんて無い。有効な手段はみんな違うから、現在の方法が自分には合わないと感じたら思いきって変えてみよう！」という結論なのですが、他人と違うことをすると不安だと感じる人は、読むと勇気が湧くかもしれませんよ。

